

## 校内研究や特別支援教育の視点を生かした 板書での「ねらい・振り返り」の実践を全ての教室に 市の工業の特色 化学変化のまとめ バスケット実技テスト

某教育委員会がある学校を訪問され、実際に黒板に書かれていた授業の「ねらい」の一例です。どう思われますか。どう見ても活動の名称ですよ。

本校では、「一人一人の発達に照らし合わせた」特別支援教育の推進に取り組んでいるわけですので、このような「ねらい」や「めあて」が書かれていることは絶対にありえません。

「0.74を10倍した数はいくつですか」「長方形の面積の求め方を考えましょう」

これならどうですか。これまでこのような「ねらい」の板書は一般的でした。しかし、先生方、どのように思われますか。これから求められる「主体的で対話的な深い学び」をさせるための「ねらい」となっていますか。違いますね。これも学習活動の名称ですよ。

「小数点の位置に気をつけてノートに正確に」とか「自分の考え方を友達と交流して」という言葉が入るだけで、授業がアクティブになりませんか。みなさんだったら、どのように工夫・改善をされますか。

「ねらい」とは、児童が、授業を通して常に意識し、見通しがもてるものであるべきです。だから、意欲や達成感が生まれるように「魂を吹き込んで」欲しいのです。

マラソンランナーが結果を残せるのかは、42.195 km走ること、コースが頭に入り、当日の気温や競う相手の情報が頭に入り、当日の「めあて」が意識をされているからです。

絵に描いた餅のような「ねらい」が書かれてあっても授業はネガティブです。

冒頭の活動内容のみの「ねらい」を例えば、このように変えたらどうでしょう。

市の工業の特色を、資料を調べて、3つ以上ノートにまとめよう。  
水溶液の化学変化で気づいたことを1年生にもわかるように100字以内でまとめよう。  
ワン・ツールのタイミングのシュートを意識して実技テストを受けよう  
これなら具体的ですね。

ある区では、この「ねらい、振り返り」の実践が小中全ての教室で展開されるよう、「授業スタンダード」に位置付け、学力調査において大きな飛躍を遂げています。この方式は、秋田県の由利本荘市（全国10年連続1位秋田の中でも高い調査結果）でも取られています。

「ねらい・振り返り」の実践を全ての教室に齊一的に行き渡らせましょう。